

みんな みんな

2003年 9月 25日 Vol. 35

特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンター 事務局通信

NPO法人制度改革の構想を

改正NPO法が施行されて半年近くになる。改正内容は、周知のように、活動分野の項目を増やしたこと、設立手続の改正をしたことなど、NPO分野に実質的な変化を招くような影響力のある内容ではない。むしろ、今次改革に際しては、行政改革の一環として進められてきた公益法人制度改革との関連で、NPOもその改革範囲に組み込まれ、将来の大変動が予想された。原則課税の問題や、NPOに固有の法人法制を廃止するという点については、様々な議論があった。今のところ、この議論は、NPO側からの問題提起や政治の思惑などの中で、沈静化している。

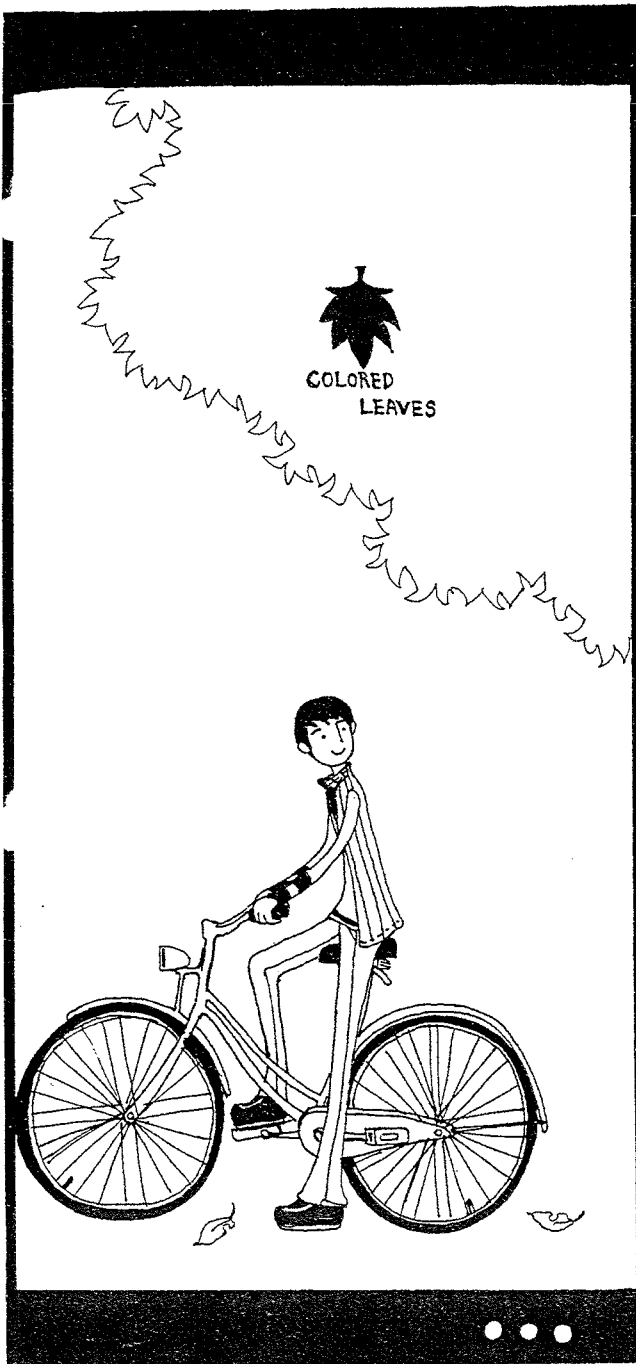
法律は、基本的に望ましい社会的ルールでなければならないし、社会の実情に即したものでなければ意味がない。そのためには、わかりやすいこと、実際に効果があること、必要最小限度であること、そして常識的に見て遵守しやすいルールであることが求められる。しかも注意しなければならないのは、法律は、一度出来上がると、時限付きで廃止時期が明記されている場合を除けばその効果は永続するし、またその改正には制定と同様の作業手順を必要とするということである。NPO法制も例外ではない。

解散総選挙や参議院議員選挙（2004年度）を控えて、自民党総裁選などではマニフェスト（数値目標や実現時期などを具体的に明らかにした政策公約書）が話題になっている。総裁選でNPO法改正の議論はなさそうであるが、いずれ主要政党の選挙公約では、何らかの取り扱いがされるだろう。私たちが、現行法制がベストとは考えていない。よりよいNPO法制度改革に向けて、改めて市民活動側からの自主的な検討を行い提案していかねばと考えているし、それにはさほどの時間的余裕はないようにも思える。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 新川達郎

内 容

第5回通常総会記念セミナー 北川正恭氏講演報告！
企業ヒアリング調査開始・ネットワーク2003
みんなみんなファンド第1回助成決定・らくだのブクブク
セナードサロン・PONPO-NET・事務局活動報告など



表紙イラスト 馬場 浩貴さん

第5回通常総会記念セミナー：基調講演&鼎談 報告

「協働と改革の未来に向けて」

●講師：北川正恭さん（早稲田大学大学院公共経営研究科教授・前三重県知事）

去る9月6日、せんだい・みやぎNPOセンターの第5回通常総会と記念セミナーが開催されました。記念セミナーでは、「地域貢献サポートファンドみんな」の助成団体が発表されたほか（6頁下欄参照）、前三重県知事として行政改革と官民協働の進展に大きな役割を果たした北川正恭氏の基調講演と鼎談を開催。今回は、「行革の前線指揮官」にして“現代日本のキーパーソン”の描く未来のシナリオについて、報告いたします。

「北京の蝶」と「勇気-根気論」

最近、私は「北京の蝶々」という話をしています。これは「北京で蝶々が舞ったら、ニューヨークでハリケーンが起きた」という有名な「カオスの理論」です。一羽の蝶が見事に舞ったら、「綺麗だわ」と一羽が二羽、二羽が四羽...と、あっという間に世界が変わるよ、ということが実際に起きてくると思います。知事時代の8年間、私はスローガンとして「勇気-根気論」という言葉を掲げ、この精神論でさまざまな仕事に取り組みました。これは「小さなことから始める勇気と、それを大河にする根気」が役人の自己実現や達成感に通ずる、との考え方でしたが、NPOもまた、小さな勇気から始まり、今、まさに大きな大河になりつつあるのだと思います。

「行革」を覚醒させた「NPO」

知事時代に、三重県でNPO担当職員を決めました。その担当者が県での「北京の蝶」でした。最初は何もわからなかった職員がミッションにしたがってさまざまな場所を歩き、話を聞くことで化けていったのです。そして全力をあげてNPOと情報を共有する中で、お互いの力を認め合う「連合体意識」が生まれました。すると、1+1が10、20にもなる成果が生まれると、官民お互いの自己実現と自立が始まって、官が全てを取り仕切ることの無意味さに気づきました。さらに、今度はそれが庁内にも広がって、部長・課長たちがヒエラルキーを超えた「ビジョン」「ミッション」に基いて動く組織を作り始めました。まず、NPO担当だった県民生活部が「全員で一緒に仕事をしよう」ということで、部屋を仕切っていた壁をなくし、フリーア

ドレスにしました。それが他の部にも広がり、やがて「総合行政」が確立したのです。

「情報公開」から「情報共鳴」へ

県民と県職員が「1+1」を10、20に変えて共に大きな成果を創り出す...これにはお互いのバリアフリーが必要です。それが「情報公開」の意義です。最初に行政が全ての情報を出す訳ですから、これは県民のみならずにも自己責任が問われることとなります。これにより、「情報公開」が「参画」を呼び込みます。三重県では、この過程で言葉に進化が起きました。「原則非公開」から「原則公開」へ。そして、県民・行政がともに情報を共有するともっと効果があがることに気づいてからは「情報共有」へ言葉が変わりました。さらには、両者にも思いがけない変化が生まれるようになると、大きな感動・感激を伴う共鳴が生まれ、最後には「情報共鳴」になりました。官の仕事は、実は補助金を配ることではなく、この「情報共鳴」を起こすことが仕事なのだと思われは気づきはじめてのです。やがて、官の世界は必ずどこでもそうなることでしょう。

「マニフェスト」は双方向性の産物

2000年4月に「地方分権一括法案」が通って、自治体は機関委任事務から解放されました。それにより「情報公開」が重要になってきたのです。これまで自治体の仕事の相手は国でした。それ故、国に対してばかり説明責任を果たしていましたが、これからはタックスペイヤーたる市民に対して説明責任を果たさなくてはなりません。しかし、こうした社会状況を作るに

は行政だけではおのずと限界があります。政治の決断が必要となります。そこで、私は「マニフェスト」というものを提唱しました。

この「マニフェスト」は市民と双方向です。知事・政党・党首だけが作るものではありません。NPO法の成立には、さまざまな市民が研究し、全国のNPOが集結して政党に案を突きつけるという取り組みがありました。私は「マニフェスト」もそれでいこうと考えています。なぜなら、市民と政治家が双方向で民意を形成して、政治を変えていく作業が、今、求められているからです。

「地方分権」のために立ち上がれ！公務員！

しかし、ある選挙の候補者が「マニフェストを書けない」と言いました。「財源を国に握られているのに、無責任なことを言えない。」とおっしゃる。確かに、首長も議員も自分の財布の勘定ができなければ、責任ある仕事などできる訳がありません。地方分権を進めなくてはなりません。

先日、三位一体の改革方針が示されましたが、その時6人の知事が「私たちの選択の結果、国からの補助金は8兆9千億円いりません。」と言いました。これから各中央省庁のものすごい反発や脅しが来るでしょう。全部情報公開して闘おうと思います！本気で地方の時代を目指して全力で私も闘おうと思います。応援して下さい。市民の力があれば必ず勝てます。今までは全てが「長いものには巻かれる」「泣く子と地頭には勝てない」でした。しかし国にとっては泣く子なん

ていい子にしかならないのです。そんな情けないことを言われている地方公務員諸君、断固立ち上がれ！「私たちは泣く子ではありません。堂々とした市民です。」そこまで言い切らずして、どこに役人の未来がありますか。

「ニッポン・プータロー・オヤジ」！？

知事を辞めたら「国会議員に戻るのですか？」と言われます。国会議員になるには「集権官治」の考え方が必要です。しかし、成熟した社会では「政治に頼る、官僚に頼る」という社会から「さは去りながら」という考えや、そういう発想で動く人が登場することも必要になってきます。そこで、私は国会議員や閣僚と言った権力に頼ることはもうやめて、別の道を歩もうと思い「プータロー」になりました。「ニッポン・プータロー・オヤジ」、頭文字を取ったらNPOです。58歳の人生を充実させるためにも「プータロー」と「NPO」で全力を挙げて活動して、たくさんのムーブメントをこの社会に起こしたいと思っています。



●鼎談から 北川正恭氏、大滝精一、加藤哲夫

大滝：知事のリーダーシップの他にも、やはり組織内部の自覚を促さないと組織変革は不可能です。そのために具体的にどのような取り組みをされましたか？

北川：最も効果があったのが「対話」、ダイアログです。面と向き合った「討議」は役所ではよっちゅうしてますが、「対話」は丸くなってお互いが納得するように話をしますし、何より出席者がお互いに立場を超えるようになります。これを部課を超えたプロジェクトチームで重ねたところ、いわゆる「各課対抗、各部対抗」がなくなりました。オフサイド・ミーティングとも言いますが、余計なことまでさらけ出して話す、という取り組みが、改革の素地になったことはまちがひありません。

加藤：北川さんはこれからNPOで活動するということでしたが、これについては今、どのようなお気持ちですか？

北川：やっぱり自由に生きて、やれるだけのことをやってみようかな、と。知事だと遠回しに発言しなくてはいけないことが多々ありましたが、言うべきことは堂々と大声で言わなければならないと思って、NPOを始めようと決意しました。今度のマニフェスト運動も、本当にボランティアな市民の運動にしていきます。これで世の中が変われば、日本の市民社会も一段、ステップアップすることができるはずですよ。

(文責・工藤寛之)

BENYのはみ出しエッセイ

◆らくだのブクブク◆

vol. 6

秋の夜は、ドラマで「へえ〜！」

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

実は、私は大変なドラマ好きで、脚本家です。まずチェック、次にキャスティング、演出家という評価基準を持っています。けれども、最近ではドラマを見る時間に帰宅できることが難しく、わずかな手がかりを駆使して、ビデオ録画で見る事が多くなりました。この9月で終了のドラマで面白かったものを少しばかりご紹介します。

1つは、「すいか」という下宿屋が舞台のドラマ。といっても、そこのオーナーはまだ20代前半の娘さんで、下宿人は20代後半の売れないマンガ家、30代前半の銀行員、50代半ばの大学教授の女性3人。わたしは、この年齢の違う女性たちが集う下宿は、見方を変えた「未来のグループホーム」だと思いました。こんなグループホーム、作ってみたいです。

もう1つのドラマ「クニミツの政」は、選挙ドラマ。これは、漫画をドラマ化したもので、熱血青年クニミツが政治という政（まつりごと）に関わる話です。わたしは、最後の2回しか見なかったけれど、若い人たちが政治に関わる話というのが面白いと思いました。特に最終回で、若者たちの集まるクラブでクニミツが「君たちの未来のことを選挙に行かずに勝手に決められてもいいのか、選ぶ権利を捨ててもいいのか」というような台詞がありました。近ごろ人気のタレント目当てにこのドラマを見ていた若い人たちは、どう受け止めたのかなあと思いました。

というわけで、「トリビアの泉」ばかりが、「へえ〜！」というわけではありません。秋のドラマにはどんな「へえ〜！」があるか楽しみです。

★ インターネット活用ワークショップとネットワーキングを ★
テーマとする国際シンポジウムを10月16日(木)に開催!

市民活動団体の皆さん、電子メディア（インターネット他）の活用はできていますか？便利なのは分かっているが、勉強している時間がない、なんとなく苦手…いろいろ理由はあるでしょう。でも、今や瞬時に世界をつなぐインターネットの時代、インターネットや電子メディアも、電話やFAXのように活動の必需品です。このシンポジウムでは、まだインターネットを活用しきれていないNPOや市民活動団体の皆さんに、情報発信活動を具体的にサポートするワークショップと、市民活動とインターネットの関係を探り、ネットワーキングにおけるインターネットの役割や可能性について、海外からのゲストを交えて、議論をいたします。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

■プログラム

○ワークショップ：市民活動のための情報活用ワークショップ

時間・場所：14:30~17:30 せんだいメディアテーク 「スタジオb」

参加費：1,000円 定員：20名(市民活動団体の方・先着順)

○シンポジウム：市民活動とインターネット

時間・場所：18:30~20:30 せんだいメディアテーク 「オープンスクエア」

参加費：無料(希望者には資料冊子販売 1,000円) 定員：100名 通訳付き

基調講演 Lisa Kimball(リサ・キンボール) MetaNet主宰、Group Jazz主宰

Rich Cowan(リッチ・コワン) Organizer's Collaborative 理事

パネルディスカッション

※シンポジウムのURL <http://www.jcafe.net/sympo03/>

(加藤哲夫)

★
ネットワーキング 2003 日本縦断国際シンポジウム
「市民社会とインターネット」
★
ネットワーキングの20年と未来への躍進

■センダードサロン報告■
第78回・第79回

部会報告

■PONPO-NET■
現状と今後の予定

第78回は、田尻町蕪栗沼周辺の貴重な湿地を次世代に伝えるための活動を行っている「蕪栗ぬまっこくらぶ」を訪問しました。小雨の降る中、沼に住むザリガニや沼周辺の植物を団体の方に解説してもらいながら観察しました。すっかり童心に帰る参加者たち。子どもたちの自然体験の場にもなっている沼を守る活動の大切さを実感。また、地域や他の団体との連携についても話が及びました。その後、農家レストランでとれたての野菜、手作りのハムやそばを味わい、心身ともに自然の恵みを体感した1日でした。

第79回は「戦争に対して仙台にいる私たちができること」でした。仙台で反戦活動に関する団体や、アメリカで反戦パレードに参加した当センタースタッフの話を中心に、お互いの活動内容やイベントなどにおける工夫点などの情報や意見交換を行いネットワークが広がる会になりました。展示を行う、パレードを行う、わかりやすいメッセージをつくり、缶バッチのデザインに盛りこむなど、戦争に反対する意志を表す方法も、実に様々。普段私達は、戦争を遠い国の出来事だと考えがちですが、身近なところからでも反戦活動に関わることが出来ます。そして、その意志は周囲のみならず世界に伝えることで市民の思いを国や社会に訴える大きな力ことにつながることを感じた会でした。
(中津涼子・中務恵美)

今回は、PONPO-NETの現在をお伝えします。PONPO-NETとは、名前の通り「PO=企業」と「NPO」の人が情報交換・交流し、それぞれの世界では気づかない社会の多様な視点を学びあう場です。主な活動は、サロンの開催とメーリングリストでの情報交換です。サロンは、企画会議やメーリングリストで企画し、メンバーの担当制で事務局との協働により実施しています。

この企画会議を7月17日に行いました。集まったメンバーで今後のテーマについてブレインストーミングし、企業とNPOの両方が興味を持って自分が気になっていることを出し合いました。「商店街とまちづくり」「みやぎの伝統産業」「CSR」「企業の環境対策」など、トランプ方式でカードに記入したアイデアを順番に出し合い盛り上がりました。メンバーの参加が宝です。あなたもPONPOに参加してみませんか？

<今後の予定>

- 「身近な環境問題と企業の取り組みをみてみよう」
日 時：10月16日(木) 18:30~20:45
場 所：宮城ゼロックスコラボレーションルーム
(青葉区五橋カメイビル1F)
- みやぎの伝統産業～現在・過去・未来～
「仙台筆筒編」(11月開催予定)

(松尾 敏行)

大手地元企業・労働組合のヒアリング調査を9-10月に実施
NPOへの人財サポートシステムの開発2003
(企業人ソフトランディングプラン21)

●第3に社員・勤労者のライフデザインや地域での生活・活動を見据えた研修プログラムを以上3点について調査します。
その上で、これらの現状と課題を明らかにし、企業・労働組合とNPOの関係構築のあり方、人材の交流について検討することにしていきます。この調査結果からより多くの企業人のNPOへの参加と、企業とNPOとの協働の促進を図りたいと考えています。
(遠藤智栄)

●第1に地域社会を構成する一員の活動として注目されている企業・労働組合の社会貢献活動
●第2に新たな社会構成員として脚光を浴びているNPOに対する企業・労働組合の意識

2002年度の当事業では、ボランティアアマネジメントの実態を調査し、NPOの人材不足の原因と課題を抽出。そこから課題の解決に向けたNPOのボランティア受け入れ活用のためのマネジメント能力向上プログラムを開発、実施しました。これにより企業人材の社会参加促進、定年後のソフトランディング支援へ向けた支援システム構築がスタートしました。
今年2003年度は、企業人材の社会参加促進、定年後のソフトランディングなどに対する企業側・労働組合側のニーズ調査を行い、課題を抽出します。
具体的には、

お待たせしました! 2003年度事業いよいよ始動!!
みやぎNPO支援センターネットワーク主催講座開催!
 まずは10月5日(日)古川NPO支援センターでお会いしましょう

気仙沼、古川、石巻、仙台、白石の各都市で活動中の「民設民営」中間支援組織が連携して立ち上げた「みやぎNPO支援センターネットワーク」。各センターの連携強化と地域NPOへの支援能力向上を目的に、2001年より各都市を巡回しながらNPOの基礎的なマネジメントについて講座を開催してきました。活動3年目となる今年度は、宮城県共同募金会からの助成の下、古川・石巻・仙台の3ヶ所に開催地を絞りこみ、「人材育成」「資金調達」そして「地域NPO支援センターの基礎的マネジメント」をそれぞれのテーマとした講座企画を実施します。

今年度は、いわゆる「地方都市」や、その周辺郡部で活動しているNPOへの支援を重点目標として掲げ、開催地周辺の地域状況や、NPOの動向を積極的に講座内容へ反映させたプログラムを提供します。特に古川・石巻会場では、宮城県内で各テーマごとに成功を収めているNPOから講

師をお招きするとともに、開催地で活躍している5つの地域団体からも事例報告者が登場。身近な事例を学ぶと共に、地域で活動している団体が持つノウハウや課題についても、参加者全員が共有できるような内容となっています。

第1回講座は、10月5日(日)13:30から古川NPO支援センターを会場に「スタッフいきいき!活動ぐんぐん!NPO人材基礎講座」と題して人材マネジメントの基礎をテーマに開催します。ゲストは特定非営利活動法人不忘アザレア事務局長の木村孝さんと、古川・大崎地方で活躍中のNPO5団体。最後には、講師・参加者のみなさんを交えての茶話交流会も開催します。

第2回講座は、11月8日(土)13:30より石巻ルネッサンス館を会場に「NPOの資金調達」をテーマに開催の予定です。ぜひご参加下さい!
 (工藤寛之)

7月から運用を開始した「みんなみんファン」の第1弾の助成金提供が先日無事完了しました。今回の助成金は、次の皆様からいただいた資金を、10万10万円の形で提供しました。最終的に16のNPOから応募いただいた中から、厳正なる書類審査を行った結果、次の6団体に助成金を提供することとなりました。これらには、先日9月6日に開催された当センター総会記念セミナーの中で、助成決定通知書が贈呈されました。また、書類審査の様子も、当センターのホームページから見ることもできます。

現在、みんなみんファン助成金第2弾として、宮城労働金庫(ろうきん)地域貢献ファンド(ろうきん)の審査が進行しています。また、その結果を含め、今後の運用については、随時ホームページ上などで情報を公開していきます。ぜひ、ご支援をよろしくお願いします。
 (高田篤)

- 助成金提供 宮城労福協社会貢献活動基金様(3口)
お祭りくらぶ。様(2口)
冠ロータリークラブ様・日専連ライフサービス様・加藤哲夫様からの寄付の合計(1口)
- 助成団体 子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ様(特)ソキウスせんだい様
C I L たすけっと様
東北H I V コミュニケーションズ様(特)蕪栗ぬまっくらぶ様
チャイルドライン in MIYAGI様

全国が注目の初助成は、一体どの団体??
みんなみんファン 第1回助成団体決定!

事務局活動報告 (7/26~9/6)

活動
報告

■事務局/自主事業関連

- ・センター会議 (7/30 8/27)
- ・仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (8/6 8/13 8/20 9/3)
- ・事務局ミーティング (8/7 9/1)
- ・理事会 (第50回:8/19 第51回:9/6)
- ・事業・運営会議 (第86回:8/19)
- ・事業企画戦略会議 (第19回:8/21)
- ・せんだいCARES説明会 (8/1 加藤・紅邑・門間・工藤)
- ・サポート資源提供システム運営委員会 (8/4 加藤・紅邑・遠藤・工藤)
- ・サポート資源提供システムライオン事務機物品提供内覧会 (8/3・4 青木・高田)
- ・セナードサロン「戦争に対して仙台にいる私たちができること」(8/21 紅邑・遠藤・中津・中務)
- ・みんなファンド助成金審査会 (8/23 加藤・紅邑・高田)
- ・せんだいCARESサポーターズ会議 (8/27 紅邑・工藤・門間)
- ・第5回通常総会/記念セミナー「協働と改革の未来に向けて」(9/6)

■NPO/企業関連

- ・(社福)大阪ボランティア協会NPO推進センター運営委員会研修 (7/26 加藤)
- ・ファシリテーター研修/主催:日本財団 (7/28・8/8 加藤)
- ・実践型コミュニティビジネス開発講座/主催(財)仙台市産業振興事業団:(7/29・8/5 加藤・川村・遠藤智)
- ・GISPRI研究会 (7/29 加藤)
- ・NPO支援センタースタッフ研修/主催:(特)日本NPOセンター (8/1・2 遠藤智)

■自治体関連

- ・百年の杜づくりフォーラム/主催:仙台市 (7/26・8/2・30 青木・松尾・佐藤)
- ・仙台市廃棄物対策審議会 (7/28 紅邑)
- ・ステップ2研修住民協働ワークショップ/主催:(財)ふくしま自治研修センター (7/30・8/26 加藤)
- ・仙台市子ども家庭支援センター管理運営団体選考委員会 (7/31・8/5・20・26 紅邑)
- ・クリーン仙台推進員委嘱式講演 (8/1 加藤)
- ・仙台市市民活動サポートセンター人材育成事業「わかる!できるマネジメント講座」(8/2)
- ・まちづくり講習会「NPOを活用した今後のまちづくり~21

- 世紀型都市計画は、NPOとの連携からはじまる~/主催:福島県都市計画協会 (8/7 紅邑)
- ・宮城県民間非営利活動促進委員会 (8/8 紅邑)
- ・市民と行政のパートナーシップ研究会/主催:北上市企画調整部企画課 (8/11・28・29 加藤)
- ・石巻地域新市まちづくり計画検討委員会 (8/12・25 加藤・紅邑)
- ・市民との協働促進のための課長研修/主催:松山市民部市民活動政策課 (8/18 加藤)
- ・まち美化タウンミーティング/主催:仙台市環境局廃棄物管理課 (8/20 紅邑)
- ・地震セミナー「阪神大震災の体験から」/主催:仙台国際交流協会 (8/24 中務)
- ・仙台市市民公益活動促進委員会 (8/26 紅邑)
- ・町民活動団体研修会「NPO活動団体と地方公共団体とのパートナーシップについて」/主催:利府町 (8/28 遠藤智)
- ・商店街組合調査事業委員会/主催:宮城県商店街振興組合連合会 (8/28 青木・田口)
- ・みやぎ地球市民すくすく計画2003「市民プロデューサー養成講座」/主催:宮城県環境生活部青少年課 (8/30 紅邑・田中・佐藤)
- ・社会教育委員会の会議 (9/2 紅邑)
- ・パートナーシップ基礎講座「市民協働を深める」/主催:仙台市職員研修所 (9/2・3 加藤)

■相談、ヒアリング関連

- ・経営相談 (8/7 加藤)
- ・ヒアリング:NPO協働体FUI (8/26)
- ・視察:北上市市民と行政のパートナーシップ研究会 (9/2 紅邑・遠藤智)



サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成15年度会員 (五十音順、敬称略、2003.7/26~2003.9/6)

(継続・正会員・団体)

青森アップル会 (特) あぐりねっと21 (特) いわてNPO-NETサポート 心の図書室 子ども虐待防止ネットワーク
 CILたすけっと せんだい杜の子ども劇場21 (特) ソキウスせんだい 仙台生ごみリサイクルネットワーク (特) 生活
 リハビリクラブきらら 高清水ソフトウエアカンパニー (特) でんでん宮城いきいきネットワーク 東北マンション管理
 組合連合会 (特) まちづくり政策フォーラム MIYAGI子どもネットワーク (特) 宮城県断酒会 (特) 麦の会
 (特) 杜の伝言板ゆるる (特) ゆうあんどあい

(新規・正会員・個人) 浅見紀夫

(継続・正会員・個人)

荒井勝子 池田一義 出雲幸五郎 稲垣美麻 内海裕一 大滝精一 岡田真秀 片桐和紀 川村志厚 木村正樹 小島誠
 佐々木圭 佐野章二 高橋幸夫 新川達郎 長谷川公一 三好彰 八木充幸 山岡義典 山田晴義 横山英子 渡辺博之
 (平成14年度) 赤木弘喜

(継続・準会員・団体)

片平たてもるの応援団 (特) グループゆう (社福) 仙台いのちの電話 仙台商工会議所 (社) 仙台青年会議所
 宮城県麗人会赤十字奉仕団 野外ぐるりん友の会

(継続・準会員・個人)

有谷昭男 生島ヒロシ 伊藤寿朗 江口徹治 遠藤幸枝 葛西淳子 齋藤巖 齊藤衣代 佐藤和夫 鈴木明英 鈴木道子
 高島紗綾 高橋一夫 高橋美加子 千葉康弘 津志田達雄 中野勇也 中村祥子 南條成子 野澤タキ子 萩原なつ子
 早坂恵美 舟山均 松井優子 渡辺雅昭 渡辺礼子

(継続・準会員・企業)

(有) シャローム 東洋ゴム工業(株) 日本たばこ産業(株) 東北コーポレートセンター (有) 平野印刷所

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、東北NSソリューションズ(PONPO-NETの会議室を無料提供)
 宮城ゼロックス(PONPO-NETの会議室を無料提供)、富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

催事・サポート案内

■セナードサロン【緊急企画】

・9/29(月)「その時NPOはどう動いたか、そしてこれか
 らに備えて~宮城県北部連続地震から~」
 会場: 仙台市市民活動サポートセンターセミナーホール
 時間: 19時~21時 参加費: 500円 ※要申込

■NPO経営相談 11/14(水) 12/17(金)

※10月に相談希望の方は日時のご相談に応じます。
 時間: 13時~17時(1時間単位: 当センターにて・有料)

■せんだいCARES 企業向け参加説明会

・10/2(木) 14時~15時30分
 会場: 宮城労働金庫会議室(仙台市青葉区北目町1-15)
 参加費: 無料 事前申込不要

■NPOの政策提案力パワーアップセミナー その1

・10月3日(金) 19時~21時
 会場: 仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール
 参加費: 1000円 ※要申込(事務局までご連絡下さい)
 主催: NPOの政策提案力の開発とNPOの参画を保障する
 自治体の政策形成システムの提案プロジェクト

せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
 tel 022-264-1281 fax 022-264-1209
 E-mail minmin@minmin.org
 http://www.minmin.org/
 会費・寄付はこちらどうぞ!
 郵便振替: 02260-3-16325
 加入者: せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



みんみん編集後記

■9/6の通常総会記念セミナー。みんみんファンドのはじめての助成先発表に続いて行われた前三重県知事・北川さんの基調講演は、未来の扉を開く鍵は持っているだけでは意味がない、鍵穴に差し込んでグイッと扉を開けという、アジテーションのようだった。NPOは運動体であることを改めて実感した1時間でした。(紅邑) ■先月、自分の部屋の電気代請求書を見てびっくり。「1000円」。電気代の大幅値下げか?! ってそうじゃなくて、単に家にいないだけ。確かに冷蔵庫以外ほとんど使っていないかも。(工藤) ■Jリーグのホームタウンサミットにボラアドバイザーとして参加してきました。全国各地からボランティア組織等の方が集まりスポーツと文化、地域、市民、そしてNPO...について熱く議論・交流しました。現在激動しているこの分野。一緒にサポートし注目していきましょう。(遠藤) ■今回で引退となりますが、せ・みのテクニクは次の職場でどんどん使います! ありがとうございます! (島山) ●島山さんをご自身の特技を活かしプロジェクトを始めるため退職することになりました。ご活躍を祈願しています。